

# 平成 24 年度研究成果情報

課題名: DNA マーカーを用いたガザミ種苗放流効果の検討

## [背景・ねらい]

ガザミは有明海の重要魚種の一つであるが、平成 15 年以降資源が低位状態にある。このため、有明沿岸四県では、新たに開発された DNA 親子判定技術を用いた放流効果調査に取り組みガザミ資源の回復を目指している。

今回、漁獲混入結果を基に、ガザミ種苗放流の有効性について検討した。

## [成果]

- (1) 本県では平成 21、22 年度に C5(20mm)サイズの種苗 24 万尾、平成 23 年度に C3(10mm)サイズの種苗 80 万尾、平成 24 年度に C3 サイズの種苗 94 万尾を放流した(表 1)。漁獲物への混入状況を調査した結果、本県から放流した種苗が平均 2%の割合で混入していた。
- (2) また、他県が放流した種苗も合わせると、最大 9%(月平均 4%)であった(図 1)。今回の調査により、標識装着が難しかったガザミ種苗の追跡調査が可能となり、放流した種苗が一定の割合で漁獲混入し、漁獲量の底上げに寄与していることが示唆された。

表 1 平成 21~24 年における佐賀県及び  
他県のガザミの放流尾数

(単位:万尾)

	佐賀県	佐賀県 有明海漁協	他県
平成 21 年	24	147	144
平成 22 年	24	155	149
平成 23 年	80	302	182
平成 24 年	94	175	147

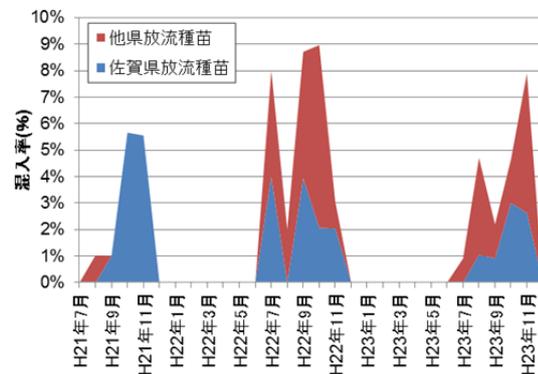


図 1 佐賀県漁獲物への放流種苗の月別混入率

## [課題・問題点]

- ・ 今回、放流種苗が一定の割合で漁獲混入することが確認されたが、ガザミは有明海を広域移動する種であり、放流効果をより正確に把握するためには、有明沿岸四県で協調した調査が必要である。

## [今後の対応]

- ・ 有明沿岸四県での共同効果調査の継続 → 適放流条件(放流サイズ、時期、場所等)の整理 → 共同放流へステップアップ

## [その他]

研究期間:平成 24 年

研究担当者:資源研究担当 伊藤 毅史